

★道徳や総合学習の授業で使える！
★交流及び共同学習で使える！
★すぐに使える指導案やワークシート・
ふりかえりシート付き！

～授業で使える～

福祉教育プログラム集【高齢編】



社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
千葉県福祉教育推進連絡会議

福祉教育プログラム集＜高齢編＞作成にあたって

千葉県社会福祉協議会では、学校関係者や福祉関係者等による「千葉県福祉教育推進連絡会議」を設置し、福祉教育の推進に取り組んでいます。

平成 26 年に「福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS 改訂版」を刊行後、これからの福祉教育の具体的な推進方策について検討すべく、平成 28 年に「福祉教育の新たな取り組み検討委員会」を立ち上げ、福祉教育を効果的に行うためのチェックリストを作成しました。その成果は、平成 29 年に「福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS 改訂 2 版」として刊行しています。

その検討過程で、学校や地域で実際に取り組むにあたって展開しやすいプログラム、なじみやすいプログラム作成の優先順位が高いことが指摘されました。

千葉県では平成 19 年度より、近隣の小・中・高校と地区社会福祉協議会等をまとめて福祉教育推進校・福祉教育推進団体として指定する「パッケージ指定方式」による地域ぐるみの福祉教育を進めていますが、実際には学校が福祉教育実践の場となり、地域の社会資源と連携して進められていることが多いようです。そこで、学校を舞台にした福祉教育プログラムの作成を検討すること、疑似体験などで展開されることの多い障害福祉分野を取り上げてプログラム化することに限定して検討を重ね、平成 31 年 3 月に「福祉教育プログラム集＜障害編＞」を刊行しました。このプログラム集の内容を検討する中で、障害福祉分野のみならず高齢者福祉分野にも拡大し、学校現場において福祉教育プログラムを選んで活用できるようにすると、より重層的に子どもたちが学べるのではないかとの提案がありました。

本プログラム集は、「障害編」に続く「高齢編」として、学校や社会福祉施設の職員、教育行政や社会福祉協議会の方々に委員としてご参加いただき、できるだけ現場の先生方にも使いやすく、子どもたちにも学びやすい、なおかつ福祉教育の視点・ポイントや地域と学校が連携して取り組む福祉教育の理念が反映されるように工夫して作成しました。

本プログラム集は、まだまだ検討の余地はあります。ぜひ、「障害編」と併せて皆様にご活用いただき、改善点などについてご意見をいただければ幸いです。

令和 4 年 3 月

千葉県福祉教育推進連絡会議

福祉教育プログラム集＜高齢編＞検討委員会

目次

1	なぜ、福祉教育が必要なのでしょう？	2
2	本冊子の特徴と使い方	4
3	福祉教育プログラムの紹介	6
■ 高齢編 ～わかる～		
①	高齢者ってどんなひと？ みんなで考えてみよう	6
②	お年寄りの生活や行動の『なぜ』について考えてみよう	10
③	発見!! 私のまちで活躍する〇〇さん	13
④	昔と今、ココが違う？ そして変わらないものを探してみよう	17
■ 高齢編 ～ふかめる～		
⑤	介護って何だろう	21
⑥	デイサービスや介護の仕事について話を聞いてみよう	24
⑦	認知症って、何だろう？ 認知症の基本的な理解と対応の仕方を学ぶ	27
⑧	学校のバリアフリーを考える	33
⑨	お年寄りの生活しやすい社会を SDGs で考える	36
■ 高齢編 ～体験する～		
⑩	昔遊びをして異世代交流をしよう	39
⑪	高齢者施設に行ってみよう	42
⑫	高齢者疑似体験を通して身体の変化を知ろう	46
★ Pick UP	高齢者疑似体験セット自作方法（例）	50
4	参考資料	51
(1)	高齢者に関する参考資料	51
(2)	学校の授業で利用できる動画のご紹介	52
(3)	福祉教育に関する相談先（市町村社会福祉協議会一覧）	53

なぜ、福祉教育が必要なのでしょう？

福祉教育は、人権教育を基本としつつ、一人ひとりが互いを認め合い、かかわり合いを大切にしながら「共に生きる力」を育むことを目的とした教育実践です。

今日では、学校現場のみならず、地域社会に「相手を思いやる力」や「相手の立場に立って考えることのできる力」といった「共に生きる力」を育む教育実践がその役割として求められており、大きな期待が寄せられています。福祉教育は学校や地域の中で起きている身近な社会問題をテーマとして扱っています。広く福祉を学び合う活動をする中で、人間社会の根源的な諸問題について気付かせてくれる側面もあります。「老いること」や「障害があるということ」などについて考えてみることを通して「命」の大切さや「人が生きる」ことの意味についても思考が深まり多くの気付きにつながっていくのです。

福祉教育は、子どもたちだけではなく、福祉教育にかかわる教員、保護者、当事者、住民にとっても、福祉の学びを通して「多様な生き方を容認することのできる」学校や地域、社会の創造につながっていく役割を担っているといえます。

○学校における福祉教育

現在、学校やクラスには、身近なところに障害のある子どもがいたり、生活困窮世帯、外国籍などの多様な児童・生徒が存在します。いじめの問題もなくなりません。このような現実が起こっている出来事に対して、仲間と共に学び合うことを通して、福祉教育は身近な人たちへの思いやりを育む契機となります。

子どもたちにとっての身近な生活課題について、「なぜ」「どうして」といった疑問を中心に学びを組み立てることで、主体的に考え、行動する力を育むことにもつながると考えられます。

これまでも「総合的な学習の時間」や「道徳」を活用した福祉教育の取り組みが進められてきました。しかし近年の学習指導要領の改訂などで、「福祉教育に取り組める時間が少ない」という声も聞きます。一方で、福祉教育は単発の授業で完結するものではありません。子どもたちに「思いやりの心」「主体的に考え、行動する力」を育む教育活動は、教科教育や道徳など、学校教育活動全般と関連付けることでよりよい効果を発揮すると考えられます。福祉教育は、人権教育と同様、教科・領域の横断的な学びを特徴としているのです。

○地域における福祉教育が求められている背景

高齢社会が進展する中、医療や介護、年金など社会保障に関するニュースや、認知症高齢者の増加、ひとり暮らし高齢者の孤独・孤立問題など、見聞きする機会が格段と増えてきています。また、新型コロナウイルス感染症による自粛生活は、これらの問題に加えて、高齢者の精神的・身体的健康にも大きな影響を及ぼしていると考えられます。

一方で、周りを見渡せば、意欲的に活動に取り組む高齢者も多く見られます。就労している方、ボランティア活動に参加している方、学習活動や趣味などで充実した毎日を送っている方など、様々な分野で活躍している高齢者も多く存在しています。健康寿命の延伸も広く認識されるようになり、多くの高齢者が社会活動に積極的に参加するようになっているのです。

現在は核家族世帯が増加し、高齢者と暮らしたり、一緒に過ごしたりする経験がほとんどない子どもや保護者が増えています。高齢者に関わる経験が少なくなることは、高齢者の日々の様子、老いるということの実態、高齢者の思いなどに触れ、受け止める機会が減少するということにもつながります。そのような子どもたちにとって、高齢者はどのように受け止められているのでしょうか。

福祉教育では、高齢社会や高齢者にかかわる社会的課題の学びを通して、子どもも高齢者も地域のあらゆる人が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティの形成を目指すためにも、地域の課題を「他人事」ではなく「自分の問題」としてとらえ、住民を主体とした「学び」と「参加」がより重要となっています。その推進方法として地域を基盤とした福祉教育の推進に期待が寄せられているのです。

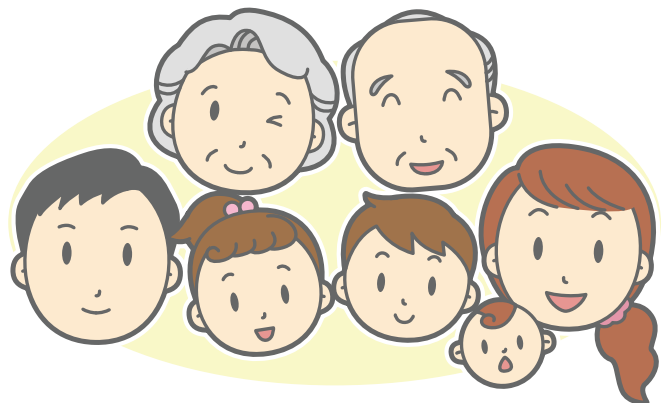
○学校と地域でつくる福祉教育へ

学校での福祉の学びは、子どもたち一人ひとりに、お互いを尊重すること、一緒に考え行動していくことの意味を考えさせる「種まき」に相当します。さらに福祉教育は、学校の中だけで完結するのではなく、地域に存在している具体的な福祉課題に気づき、考え、行動できる担い手の育成も目指しています。そのためには、地域で福祉活動をしている団体や個人と連携して、福祉の学びを自分たちの生活に結び付けていくプロセスが重要です。

近年、社会関係の希薄化とともに、家庭や地域の教育力や福祉力も低下してきているといわれています。学校や地域、子ども・大人・当事者が一緒になって、地域の福祉課題を共有し解決策を見出していかなければならないのです。そのプロセスにおいて、地域住民としての連帯感が強まり、「福祉でまちづくり」を行う担い手となるのです。

○「共に生きる」、それは福祉の文化

共生の文化は、かかわり合う、共に生きる、活動することによって醸成されてくるものです。分断ではなく、繋がりあう社会（ソーシャルインクルージョン）こそが豊かな社会なのです。矛盾や葛藤をなくすことではなく、悩み、話し合いながら、自分たちなりの解決策を考えていくプロセスこそが福祉教育で最も大事にしているポイントです。私たちの社会が福祉教育を通して、「福祉の文化」＝「様々な人が共に生活する社会があたりまえという状態」に結実していくことを願っています。



本冊子の特徴と使い方



★特徴1 発達段階に合わせてアレンジ自由

本冊子に掲載したプログラムは、小学5年生程度を対象に作成していますが、中学生・高校生向けのプログラムとしても発展させることができます。

★特徴2 12のプログラムを3段階で発展的に学べる

＜高齢編 ～わかる～＞ 「老いる」とはどのようなイメージでしょうか。高齢者とはどういう人なのか、高齢者ってどのようなことを考えているのか、自分たちと違うところや同じところは？高齢者のイメージについて共有します。

＜高齢編 ～ふかめる～＞ 高齢者や高齢社会の様々な課題について学び、考えるプログラムです。「支える・支えられる」という一方的な関係ではなく、高齢者を取り巻く様々な状況について理解を深め、共に地域で暮らすことを考えます。

＜高齢編 ～体験する～＞ 普段接する機会の少ない高齢者との交流、生活の場である福祉施設でのくらし、年をとることによる身体の変化などについて、また、豊富な経験をもつ高齢者がいることについて体験を通して理解し、支え合う関係について考えます。



学 び の

＜わかる＞

「年をとる」ということの基本について学びます

- ①高齢者ってどんな人？みんなで考えてみよう
- ②お年寄りの生活や行動の『なぜ』について考えてみよう
- ③発見！！私のまちで活躍する〇〇さん
- ④昔と今、ココが違う？そして変わらないものを探してみよう

【授業展開例】
(番号はプログラムの
番号です)

(1) 高齢者を知る・関わる

① + ② + ③ → ⑩ + ⑫ → ⑧

(2) お年寄りを手助けする、ということとは？

① + ② → ⑤ + ⑥ + ⑦ → ⑪ + ⑫

(3) 高齢者の社会参加について考える

③ + ④ → ⑧ + ⑨ → ⑩

わかる

体験

このプログラムは、そもそも高齢者や高齢社会とは何だろうか、という基本的な部分の学びや仲間との共有を大事にしています。＜わかる＞プログラムは、福祉教育プログラムの基礎にあたると考えています。

＜ふかめる＞＜体験する＞プログラムは、テーマに基づいて、事例や教材を使って学習や議論をしたり、体験を通して理解をふかめる目的で作られています。テーマによっては双方のプログラムを組み合わせる授業を展開してみるのもよいでしょう。

★特徴3 プログラムの選択や組み合わせは自由

体系的に高齢者の理解が進むように、段階的にプログラムを配置していますが、それぞれのプログラムは単独でも使用できるように作成していますので、カリキュラムに合わせてプログラムの選択や組み合わせをしてください。

★特徴4 「ワークシート」や「ふりかえりシート」が使える

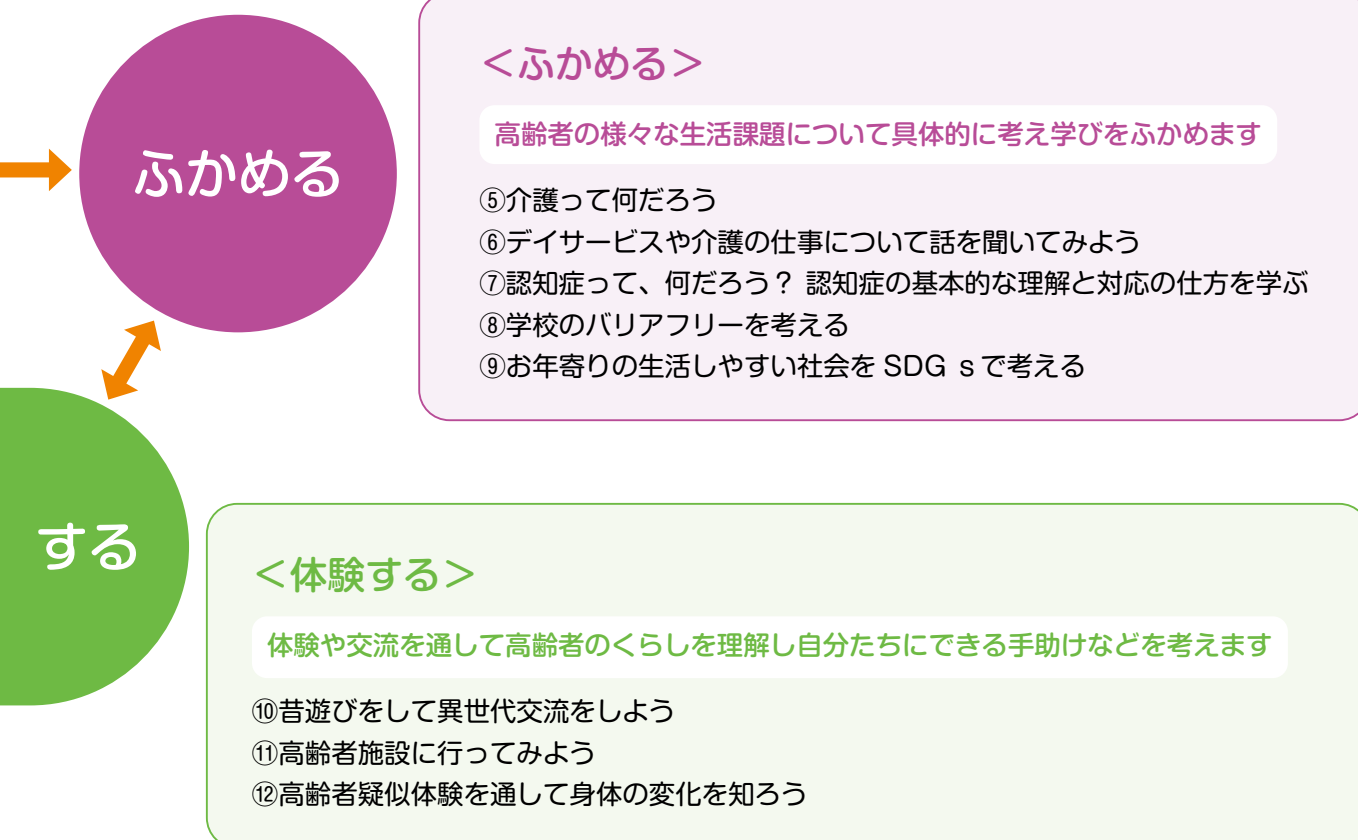
各プログラムには、指導案に合わせてワークシートやふりかえりシートを用意しました。子どもたちの気づきや考えを、ワークシートやふりかえりシートに記入し、他者と共有することで、更に学びを深めることが期待できます。また、シートをもとにフィードバックしたり、話し合いを行うなど、発展的な学習にも活用できます。

★特徴5 福祉教育を日常の学びに

プログラムは単独で使用することはできますが、一連のカリキュラムの流れに位置付けることは重要です。そのため授業の冒頭では、その前の時間に学んだ内容の振り返りを行い、その時間の内容につなげるように指導案を作成しています。例えば、「先日運動会の種目について話し合いましたが、今日は、運動会に車いすを利用している方が来たらどうしようか考えましょう」など、通常の授業や教育活動、日常生活に結びつけるような工夫を意識してみてください。



体系図



テーマ① 高齢者ってどんなひと？ みんなで考えてみよう

🌱 テーマについて

「高齢者ってどんなひとなのか」について考えてみるプログラムです。この後の様々な体験プログラムを行う上での準備・導入となる最初の内容になります。自分の身近なところにいる「高齢者像」を思い浮かべ、考えながら、みんなで高齢者のイメージをふくらませます。

🌸 目標（わらい）

高齢者の身体の特徴などを知り、高齢者とはどんなひとのかをイメージすることができる。

🌼 事前学習や準備

- ・必要に応じて統計グラフなどの配布資料を準備します。
- ・P51「高齢者に関する参考資料」を参照するとよいでしょう。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「今日は、ワークシートを使って、また班での話し合いをして、高齢者ってどんなひとなのか、考えてみましょう。」	○「高齢者」について、イメージしやすい話題を交える。
展開 (10分) (15分)	2 ワークシートを記載する時間を設ける ・ワークシートの「自分の意見」欄を記入する。 3 班に分かれ、ワークシートに書いたことを共有する ・「自分の意見」欄に書いたことを発表する。 ・他のひとが発表した内容を、自分のワークシートに書く。	○「自分の身近なところにいる高齢者をイメージしながら書いてみましょう」などの声かけや、サポートをする。 ○他のひとの意見を聴き、それを受け入れ、自分のワークシートにも書き加えるようにする。
(10分)	4 各班から発表をしてもらう ・班の話し合いで出た意見を発表してもらい、全体で共有する。	○他の班の意見を聴き、いろいろな視点や考え方、捉え方があることを理解できるようにする。

<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 まとめを行う</p> <p>「高齢者とは何歳くらいのひとなのか。」「年をとると、身体が動きにくくなったり、目が見えにくくなったり、耳が聞こえにくくなることもあるということがわかりました。」</p> <p>「しかし高齢者といっても、皆が皆同じではありません。皆さんのまわりには、仕事やスポーツをするなど元気な高齢者もたくさんいるのではないのでしょうか。」</p> <p>「皆さんのまわりにいる高齢者について、よく振り返ってみましょう。」</p> <p>6 ふりかえりシートを書く時間を設ける</p>	<p>○高齢者の年齢について、法律的な位置づけが65歳ということについて解説する方法もある。</p> <p>○子どもたちが高齢者の特徴をあらためて捉えるとともに、高齢者も一様ではないことを理解させる。</p>
----------------------------	---	--

ワンポイントメモ

- 高齢者と同居している子どもも、そうでない子どももいると思います。子どもたちが地域で家族以外の高齢者と接する場面などをイメージさせたり、導入部分で高齢者に関する具体的なエピソードをいくつか紹介してみるなどの工夫を凝らしてすることが大切です。



ワークシート 「高齢者ってどんなひと？ みんなで考えてみよう」

年 組 番 氏名

●友達にインタビューして、次の表を完成させましょう。

① わたしの年齢は _____ 歳 です。

② 高齢者の年齢は _____ 歳 以上だと思います。

③ 高齢者ってどんなひとだと思いますか。

	自分の意見	みんなの意見
<p>皆さんの家族や近所に 高齢者はいますか？</p> <p>いるとしたらどんなひと ですか？ (何歳くらいのどんな ひと？)</p>		
<p>高齢者のからだの特徴 は？ (手や足、目や耳の状 態など)</p>		

ふりかえりシート 「高齢者ってどんなひと？ みんなで考えてみよう」

年 組 番 氏名

授業を受けて、高齢者とはどんなひとだと思ったか、自由に書いてみましょう。

テーマ② お年寄りの生活や行動の『なぜ』について考えてみよう

🌱 テーマについて

街中や家庭で見かけるお年寄りの生活や行動について、特徴的な事柄や、その背景にある『なぜ』を考えます。

🌸 目標（わらい）

お年寄りの生活や行動について、その背景となる理由を整理することにより、高齢者についての理解を深めることができる。

🌼 事前学習や準備

- ・テーマ①を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・4人程度の班を作っておきます。
- ・身近な高齢者の生活や行動と自分との違いについて考えさせます。事前課題として、ワークシートを記入させておくこともできます。生徒に調べさせておくのもよいでしょう。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「お年寄りの生活や行動について調べてみましょう。今日は身近にいる高齢者について、『なぜ』と思うことを出し合い、考える機会にしましょう。」	○高齢者について、テレビなどで取り上げられている極端なイメージではなく、日常でよく見かける生活や行動について、他者と共感できるものを考えさせる。
展開 (35分)	2 意見を出し合い、発表する <ul style="list-style-type: none"> ・身近にいるお年寄りの、自分とは異なる生活や行動について、最初は個人作業として考えさせ、4人程度の班で自由に意見を出し合い、付箋にまとめさせる。 ・ここでワークシートを配布してもよい。 ・付箋にまとめた内容を整理し、似ているものをまとめて模造紙に貼り、まとまりごとにタイトルを付ける。 	○教師側で具体例を提示できるとよい。 「歩くのが遅い」 「手押し車（シルバーカー）を押している」 「病院に頻繁に行く」 「朝早く起きる」 「仕事や学校に通っていない」など。 ○他の人の内容を読みながら整理させる。班のリーダーや記録係を中心に進める。 ○ロイロノート*のような協働学習用のツールや電子黒板を活用してもよい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのまとまりについて、わかる範囲での理由を考える。この場合わからないものは「わからない」としておく。 ・各グループで簡単に発表をする。 ・他のグループのメンバーで理由や原因のわかっていない人に答えてもらう。 ・「わからない」問題について、全員でその理由を考えてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「わからない」ことについて、こじつけで考えることのないように気をつけさせる。 ○積極的な質問を促す。 ○偏った答えにならないように教師側で誘導する。
まとめ (5分)	3 まとめを行う <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特徴的な生活や行動について、その背景や理由が理解できたか、問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者についての法律的な位置づけについて解説する方法もある。 ○子どもたちが高齢者の特徴を改めて捉えるとともに、皆が同じではなく、いろいろな高齢者がいることを理解できるようにする。



ワンポイントメモ

- 自分の身近な高齢者について限定して扱ってもよいでしょう。
- 高齢者の優れた行動についても調べさせてみるのもよいでしょう。
- この時間の中ですべての背景や理由が分かるものではありません。実際に高齢者（ゲストティーチャー）をクラスに迎え、インタビュー活動に発展させ、疑問点を解決することもできます。
- 高齢者に対するネガティブなイメージやマスメディアが採り上げている情報に流されないように、自分の考えで話を進めることが大切です。
- 中学生や高校生についても同様の授業を展開することができます。その際、家庭科や保健体育の授業と関連させて実施することも可能です。高齢者の身体的な変化に関して、保健体育的な考えで議論させてもよいでしょう。
- 福祉機器やICTを活用した、高齢者の行動のサポート体制に触れることも大切です。自動車の自動運転や音声入力などについて考えさせることもできます。

※ロイロノートは、小学校などでグループの活動をまとめる際に活用できるタブレット用のソフトウェアです。

※このプログラムでは、第三者的に捉える時には「高齢者」、子どもが自分と相対するものとして捉える時には「お年寄り」と表記しています。

ワークシート「お年寄りの生活や行動の『なぜ』について考えてみよう」

年 組 番 氏名

1. お年寄りと自分の生活や行動の面でちがうところを書いてみよう。

	生活や行動のちがい（何が、どんな風に）	どうしてだろう（理由）
1		
2		
3		
4		
5		

2. お年寄りと接する時には、どのようなことに気をつける必要があるか、自由に書いてみよう。

テーマ③ 発見!! 私のまちで活躍する〇〇さん

🌱 テーマについて

子どもたちの日常生活や楽しい学校生活が、安心・安全で過ごせるのも、身近で活躍する高齢者の方々の活動に支えられているからです。このプログラムでは、どのような高齢者が身近でどのような活躍をしているのかを学びます。

🌸 目標（わらい）

- ・子どもたちが、学校を取り巻く地域で活動している高齢者の方々の活躍を知ることにより、「高齢者＝弱者・お世話される人」というイメージを払拭することができる。
- ・実際に高齢者が活躍している姿を見聞きする中で、将来自分たちが地域のためにどのような貢献ができるか考えることができる。

🌼 事前学習や準備

- ・テーマ①、テーマ②を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・自分たちの身近に、どのような活動で活躍している高齢者がいるかを考えます。

《◎ゲストティーチャーありの場合》

- 【学校】
 - ・ゲストティーチャーを迎える準備をします（入校の手続きや事前の打ち合わせなど）。
 - ・どのような内容のお話を希望するのかイメージがあるとベストです!!
- 【児童・生徒】
 - ・インタビューする内容やインタビュアー、記録役などを決めておきます。

★まずは社会福祉協議会に相談を!!（P53一覧参照）

- ・学校生活を取り巻く環境の中で、地域で地域のために活躍する高齢者を見つけ出すことが肝心です。
社会福祉協議会の構成員には、自治（町）会、民生委員児童委員、地区社協役員、安全パトロール、高齢者クラブ、子ども会育成会、商店会など、地域のために活躍している方々がいて、まさに人材の宝庫です。
- ・社会福祉協議会は、学校と相談しながら、教員側の要望に沿えるよう、ゲストティーチャーの紹介、橋渡しなど、活動のお手伝いをしてくれます。

- ・防犯活動、美化活動、お祭り、防犯灯の交換など
- ・課題のある家庭への訪問指導、災害時支援活動など
- ・地域の昔話、昔遊び、伝承芸能など

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

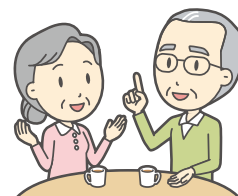
配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 身近に活躍する高齢者を考える 「みなさんは身近で活躍する高齢者の方を知っていますか？」	○一般的には65歳以上を高齢者と考える。 「高齢者は何歳から？」と問いかけるのもよい。

	<p>(想定される児童の反応)</p> <p>★登下校に安全パトロールしてくれる人</p> <p>★学校の花壇や周りを清掃してくれる人</p> <p>★火の用心や夜回りをしてくれる人 など</p>	
<p>展開 (35分)</p>	<p>2 《ゲストティーチャーなしの場合》</p> <p>「みなさんが知っている活躍する高齢者の方について班で話し合ってみましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お名前や呼び名 ・どんな活動をしているか ・素晴らしいところ ・わくわくレベル <p>2 《ゲストティーチャーありの場合》</p> <p>「今日はみなさんの周りで身近に活躍している高齢者の方をお招きしていますので、お話を聞いてみましょう。」</p> <p>ゲストティーチャーの紹介</p> <p>「今日はみなさんの学校の周りで活躍する〇〇さんにお越しいただいています。自己紹介とどのような活動で活躍しているかお話していただきますよう。」</p> <p>3 《共通して》</p> <p>どんなところが素晴らしいか、わくわくしたか、わくわくレベルを話し合ってみよう。</p>	<p>○お名前を知らない場合もあるため、「呼び名」も考える。</p> <p>○わくわくレベルを☆で示す。☆レベルで優劣をつけることが目的ではなく子どもたちが話を聞いて素晴らしいと思ったか、わくわく感じたかを☆レベルで表現するよう説明する。</p> <p>○時間の配分があるため、事前に話してもらう内容を調整する。</p> <p>○子どもたちからインタビューする場合、事前にどのようなことを聞くのか？などクラスやグループで話し合っておく。</p> <p>○インタビュアーや記録役などを事前に決めておく。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>4 ふりかえりシートを書く</p> <p>「自分が高齢者になった時に、自分が住んでいる地域のためにどのようなことができそうか、やってみたか、みなさんの気持ちを書いてみましょう。」</p>	



ワンポイントメモ

- みなさんが思い描いた高齢者のイメージはどうでしょうか？
- 「〇〇が得意」「昔のこと、生活の知恵をよく知っている」など、高齢者は素晴らしい人生の先輩方です。
- みなさんの周りで「地域のために」「みんなのために」「自分の健康のために」、様々な目的を持って自分に来ることで活躍している高齢者の存在に気づかせることが大切です。



ワークシート 「発見 !! 私たちのまちで活躍する〇〇さん」

班

班のメンバー

●私が知っている活躍する高齢者を紹介してください

	名前や呼び名	どんな活動をしているか？	素晴らしいところ	わくわくレベル
1				☆☆☆☆☆
2				☆☆☆☆☆
3				☆☆☆☆☆
4				☆☆☆☆☆
5				☆☆☆☆☆

●ゲストティーチャー（お話をいただいた方）

	名前や呼び名	どんな活動をしているか？	素晴らしいところ	わくわくレベル
1				☆☆☆☆☆
2				☆☆☆☆☆

ふりかえりシート「発見!! 私たちのまちで活躍する〇〇さん」

年 組 番 氏名

1. みなさんのまちで身近に活躍している高齢者は見つけられましたか。

はい いいえ

2. 今日話を聞く前と聞いた後では、高齢者のイメージは変わりましたか。

前)

後)



3. 将来、みなさんが高齢者になった時、自分の暮らすまちのために活躍できるとしたら
どのようなことが考えられますか。

テーマ④ 昔と今、ココが違う？そして変わらないものを探してみよう

テーマについて

昔の生活と現代社会の生活では、テクノロジーの発達などにより、大きく変化してきています。昔の暮らしには不便さもありますが、様々な知恵と工夫を出し合って生活していました。このプログラムでは昔と今の違いを知ることで、これからの生活のあり方について考えます。

目標（わらい）

昔の日常生活から感じることができる『良さ』について触れ、これからの時代にも大切にすべきことを考えることができる。

事前学習や準備

事前学習

- ・テーマ③を事前学習に充てるとより効果的です。
 - ・昔（〇〇年頃）と今を比べます。P51「高齢者に関する参考資料」を参照するとよいでしょう。
- 例）歌われていた歌はどのようなものか・家族構成・学校での様子（学業）、部活動、家の手伝い、その他やりたいことができている（た）？・電気・ガス・水道・遊び・食べ物（食事とおやつ）・ごみ処理や活用・連絡手段 など

準備

- ・昔の地域の写真（街並み、家の中、学校、子どもの姿を写した写真）
- ・地域の様々な習慣や風習についてお話してくれる方を学校にお招きすることも効果的です。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する ・事前に自己学習やグループ学習を通して、情報を得る。	○昔のことを否定的に捉えるのではなく、肯定的に捉えられるように促す。 ○自分がその時代にいたら…ということを想像して授業に入るようにする。 ○他の人が話をしているときには関心を持って聞き入れるように促す。

<p>展開 (35分)</p>	<p>2 意見を出し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方をお招きする場合は、「昔はね・・・」と説明をしてもらう。 ・教員が昔の写真を提示し、それについて自由な感想や意見を出し合う。 ・写っている物・人・現象など、そこにあるものを確認する。 ・それらの物や事柄がどのような関係にあるのかを述べる。 ・写真から物語を考えてみる。 (想像して周囲からどんなものが聞こえてくるか、匂いなど感じるものがあるか) ・昔と今を比べて、何が変わっているか、進化しているか、その中で昔の良いところ、工夫している点や知恵が感じられる点は何かを確認する(ワークシートに記入)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思ったことを自由に発言させ、内容については否定しない。 ○物の名前、人物の区別、時代背景を考えてみる。 ○写真を基に想像する(「～したと思う」「～と考えていると思う」「～などの工夫をしていた」など)。 ○想像してみ、「それからどうした」「～が起こった」と物語を考えてみる。 ○昔と今を比べて変わっていることは何か考えてみる(環境、道具など)。 ○児童の中で、祖父母、曾祖父母から似たような話を聞いたことがあるかなどを投げかけてもよい。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>3 ふりかえりシートを書く時間を設ける</p> <p>4 まとめを行う</p> <p>授業で出された情報や意見について、大切にしていかなければならないことは何か、今後自分たちにできることは何かを考えてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○先人の築いてきた知恵や工夫の重要性と、いろいろなアイデアを考えていくことの大切さに気づかせる。また、人の話を聞き、自ら考えることを大事にすることが大切であると考えさせる。



ワンポイントメモ

- どの時代でも構いませんが、物などの対比できるものを事前に用意できるようにしておくことが大切です。
- これまでの日本を作り上げてきた先人の、いろいろな知恵と工夫を知ってもらう機会とします。
- 昔の暮らしが不便であるだけのネガティブなイメージにならないように留意してください。
- これからの学習でも「自ら考える」ことの必要性を大切にしてもらうように促すとよいでしょう。

ワークシート 「昔の暮らしと今の暮らしの違いを探してみよう」

年 組 番 氏名

- 1 昔と今を比べて、どのようなことが変わってきたかを確認してみましょう。

変わったこと	
昔	今

- 2 その中で工夫していること、知恵があると感じたことを書き出してみましょう。

ふりかえりシート 「昔の暮らしと今の暮らしの違いを探してみよう」

年 組 番 氏名

昔の暮らしで工夫をしていたことや、どんな知恵を活かしていたかについて、他の人からはどのような意見がありましたか。

他の人の意見

今後大切にしていかなければならないと感じたことや、これからの自分にできることは何かを考えて書き出してみよう。

テーマ⑤ 介護って何だろう

テーマについて

「介護」を単に「介助」というように考えがちですが、動画を視聴することでなぜこのような介護が必要なのかを考えさせ、「介護」の本来の意味を理解し学びます。

目標（わらい）

「介護」や「介助」という言葉の意味を知ることにより、自分が高齢者に対して何ができるか考えることができる。

事前学習や準備

- ・テーマ①、テーマ②を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・NHK for School（次ページまたは P52 参照）を視聴しておきます。
- ・配布資料としてワークシートを準備します。

☆授業展開案（おおよそ 1 コマ：45 分～ 50 分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「今日は高齢者の介護について調べていきます。」	
展開 (35分)	2 動画を視聴する <ul style="list-style-type: none"> ・本時のワークシートを配布する。 ・NHK for Schoolにある「ドスルコスル」の「どうする？お年寄りのサポート」(10分)を視聴する。視聴した内容について、ワークシートに従ってまとめさせる。 ・「介護」とは何をすることか、調べる。 ・動画を見て「介護」と「介助」は何が違うのか理解できたか確認する。 ・「今、自分にできることは何がありますか。」 「自分が高齢者になったら、どのようにしてほしいですか。」などをテーマに考えさせ、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この番組は、介護だけでなく、高齢者が多くいることや老老介護のこと、介護人材不足についても説明している。 ○「ミライのしごとく」にも同様の番組があり、参考になる。 ○介護とは、「日常生活を送ることが困難な高齢者に対して、本人の意思を尊重しながら生活をサポートし、自立を支援すること」と考えられる。単なる「介助」ではないことに注意する必要がある。 ○自分のできること、できる範囲をきちんと考えさせる。 ○自分が要介護者になったときのことをきちんと想像できるようにする。

<p>まとめ (5分)</p>	<p>3 まとめを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護とは、単なる介助ではなく、要介護者が人として生活できるようにお手伝いすること、自立した生活を送れるように支援することであることを再確認する。 	
----------------------------	--	--

参考：

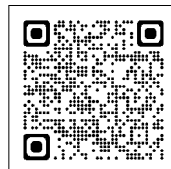
1. NHK for School ドスルコスル「どうする？お年寄りのサポート」(10分)

(https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180266_00000)



2. NHK for School ミライのしごと一く「介護業界の未来」(10分)

(https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005170068_00000)



ワンポイントメモ

- 介護の現状を理解させます。社会科や家庭科の授業と関連させることもできます。
- 動画を視聴して、感想を書かせる時間を十分にとります。その際に、できるだけ具体的に書かせます。
- 自分にできることについて考える場面では、自分の限界なども考え、今できることや将来できることなどに分けて考えてもよいでしょう。
- このプログラムはテーマ⑪の「高齢者施設に行ってみよう」の事前学習としても活用することができます。



高齢者の作品（介護老人福祉施設うらやす和楽苑提供）

ワークシート 「介護って何だろう」

年 組 番 氏名

1. 動画を視聴した感想を書いてみよう。

2. 「介護」と「介助」の違いについて、どこがちがうかを書いてみよう。

3. これからの自分にできそうなことを書いてみよう。

テーマ⑥ デイサービスや介護の仕事について話を聞いてみよう

🌱 テーマについて

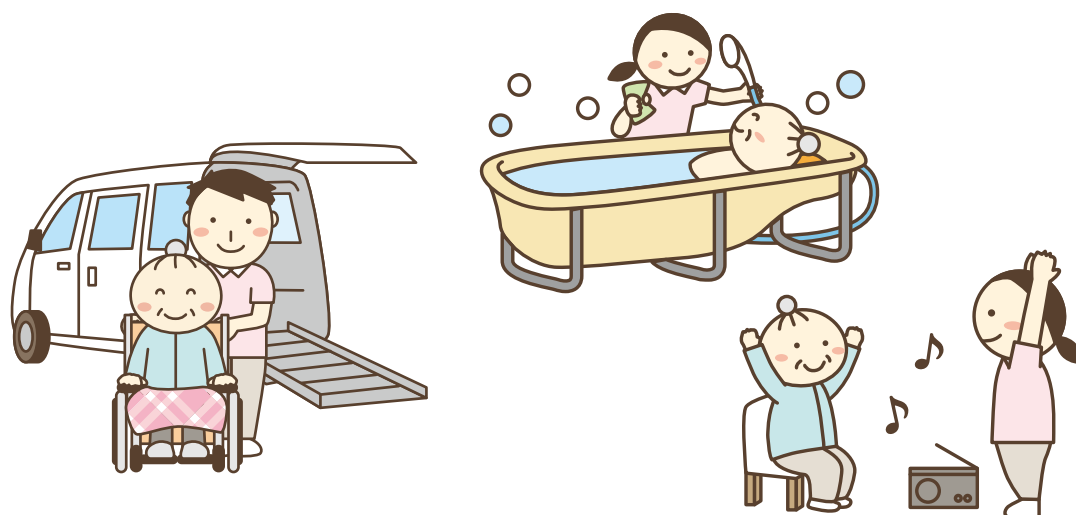
地域には、介護を必要とする高齢者がたくさんいます。こうした高齢者を支える重要な地域にある社会資源と、そこで働く専門職について知るためのプログラムです。地域の「デイサービスセンター」で働く職員を講師に招き、直接話を聴くことで、介護の仕事や専門性について、わかりやすく学ぶことができます。

🌸 目標（わらい）

- ・高齢者を支える地域の介護サービスについて知ることができる。
- ・実際に専門職に接することで、介護の仕事や専門性について知ることができる。

🌼 事前学習や準備

- ・テーマ⑤を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・デイサービスとは、介護保険制度に基づくサービスで、在宅で生活する高齢者が通所して食事や入浴、機能訓練等のサービスを受けられる事業です。まずはデイサービスを知るための情報収集をするとよいでしょう。
- ・地域にどのようなデイサービスセンターがあるのか、社会福祉協議会（P53一覧参照）や地域包括支援センターに相談してみてもよいでしょう。
- ・依頼先のデイサービスセンターが決まったら、担当者と打ち合わせをします。
 - * 授業の目的やプログラムの内容についてデイサービスセンターの担当者に詳しく説明し、主旨をしっかりと理解してもらうことが大切です。
 - * 授業では「デイサービスに通う高齢者について」「デイサービスとはどんな事業か」「専門職について」など子どもたちが理解できる内容で話してもらうよう伝えます。写真やスライドを使用してもらうなど提案するとより効果的です。
 - * 日時やタイムスケジュール、配布資料、使用する機材など、詳細について確認します。



☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「介護を必要とする高齢者はたくさんいます。今日はこうした方々を支える地域の介護サービスについて学びます。」 「実際に働いている専門職員の方から話を聴いて、デイサービスとはどのようなところなのか、職員の方はどのようなお仕事をしているのか、学んでみましょう。」	
展開 (35分)	2 専門職を講師に招き、話を聴く (内容の例) ・ デイサービスに通う高齢者について ・ デイサービスとはどのような事業か ・ デイサービスで働く専門職や資格について ・ 介護の仕事のやりがい など 3 質疑応答や専門職との意見交換	○ デイサービスセンターの職員には、写真や動画を見せてもらったり、送迎車両のことについて具体的に紹介してもらおうと、よりわかりやすい。
まとめ (5分)	4 まとめを行う 「今日はデイサービスについて、そして介護の現場で活躍する専門職について話を聴くことができました。」 「介護の仕事をするには、専門的な教育を受けたり、資格を取ったりすることが必要なものもあります。いろいろ調べてみましょう。」 5 ふりかえりシートを作成する（宿題）	○ 介護の仕事の専門性について、改めて知ってもらえるようにする。



ワンポイントメモ

- 身近で活躍する介護の専門職を講師に招くことで、介護サービスの実際についてわかりやすく学ぶ機会になります。また介護の仕事についても知ることができます。
- デイサービスセンターが見つからない場合には、地域の特別養護老人ホームや訪問介護、ケアマネジャー（介護支援専門員）等、他の介護サービス事業者に依頼することもできます。

ふりかえりシート 「デイサービスの仕事についてまとめてみよう」

年 組 番 氏名

●授業の中で聴いた、デイサービスセンターについて書いてみましょう。

○デイサービスセンターには、どのような高齢者が通っていますか。

○デイサービスセンターの職員みなさんはどのような仕事をしていますか。

テーマ⑦ 認知症って、何だろう？認知症の基本的な理解と対応の仕方を学ぶ

🌱 テーマについて

認知症になっても住み慣れた地域で生活し続けられるように、認知症の基本的な理解と対応の方法について学びます。

🌸 目標（わらい）

- ・認知症高齢者を、偏見なく正しく理解し、思いやりをもって接することができる。
⇒授業展開案①「認知症について知る・学ぶ」
- ・認知症高齢者の気持ちに寄り添い、思いやりをもった声掛けができる。
⇒授業展開案②「認知症の方とのかかわり方を考えてみよう」

<認知症プログラムに取り組むにあたって>

高齢社会がすすみ、認知症も社会的課題として取り上げられる機会が多くなりました。しかし、子どもたちにとって、認知症は身近な話題ではありません。

認知症は、誰でもなる可能性がある病気で、加齢や脳の病気、障害など様々な原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。ぼんやりする、怒りっぽくなる、徘徊など認知症に伴って生ずる生活問題は多く知られていますが、それらの言動の原因を知り、対応の仕方を学ぶことで、周りの人たちが認知症の方やその家族を支えていくことができます。

このプログラムは、小学生中高学年を対象に、認知症について知る・考える・関わり方を学ぶ基本的な内容で構成されています。授業の進め方は授業案に基づいて実施できますが、授業を担当する先生方にとっても、認知症に対する基本的な理解は不可欠だと考えます。そのため、まずは授業を始める前に、以下の参考資料などをもとに予習をした上で、学校の最寄りの社会福祉協議会（P53 一覧参照）や地域包括支援センターなどに相談されることをおすすめします。

🌸 事前学習や準備

- ・テーマ⑤、テーマ⑥を事前学習に充てるとより効果的です。

<認知症に対する基本的な知識の理解>

各都道府県や市町村で認知症キャラバン、認知症サポーター養成講座、認知症キッズサポーター養成講座などを実施しています。インターネットで調べると、子ども向けに作成されたハンドブック、教材、副読本、実践事例などが多く紹介されています。

<参考>

☆千葉県健康福祉部高齢者福祉課

「認知症サポーター養成講座・認知症キャラバンメイト養成の案内など」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/shien/ninchishou/supporter-caravan.html>



☆動画教材

「小学生・中高生向け認知症教材」(相談 e-65 ネット エーザイ株式会社)

<https://sodan.e-65.net/good-health/useful/download/textbook.html>



☆千葉大学医学部付属病院 千葉市認知症疾患医療センター

「認知症こども『力（ちから）』プロジェクト」

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ninchi/project/index.html>



☆千葉市保健福祉局健康福祉部地域包括ケア推進課

「認知症かるた」

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/kenkofukushi/hokatsucare/supporter.html>



☆授業展開案① 「認知症について知る・学ぶ」

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1 本時のテーマと目標を説明する</p> <p>・ どのようなことが問題になっているのか</p> <p>⇒行方不明の高齢者の件数、防災無線の行方不明者の放送など</p>	<p>○長生きする人が増えるとともに、介護を必要としている人や認知症を患う人も増えてきているということを理解させる。</p> <p>* 認知症について学ぶ前に、P51「高齢者に関する統計」で、現状や課題などを学んでおくといよい。</p> <p>* 認知症について身近に起きている出来事をもとに動機づける。</p>
展開 (35分)	<p>2 認知症について知る・学ぶ</p> <p>①認知症って、何だろう？（15分）</p> <p>クイズ形式で子どもたちに考えさせる</p> <p>* 千葉大学医学部・千葉市認知症疾患医療センター「認知症こども『力（ちから）』プロジェクト」ウェブサイトにある小学生向けの認知症クイズを使用してもよい。グループで話し合わせて解答を考えさせてもよい。</p> <p>②認知症について学ぶ（20分）</p> <p>認知症とはどのような病気なのか？どのような症状が出るのか？ など</p> <p>* 教材は『千葉大学医学部附属病院 千葉市認知症疾患医療センター「認知症こども『力（ちから）』プロジェクト」ウェブサイトに掲載されている小学生や中学生向けの教材などが参考になる。</p> <p>* 紙芝居方式で認知症について説明してもよい。</p> <p>* 地域包括支援センターに相談して講師として来てもらうと、より効果的。</p> <p><参考>動画を見て認知症の実態を学ぶ（20分）</p> <p>「小学生・中高生向け認知症教材」（相談 e-65 ネット）</p> <p>⇒講義ではなく、認知症の具体的事例をドラマで紹介した動画などを視聴してもよい。</p>	<p>○認知症に関するクイズなどを通して学びの動機づけを行う。</p> <p>* ワークシートを活用</p> <p>* グループで話し合わせても良い</p> <p>○クイズに出てくる認知症の病気や症状について確認する。</p> <p>* 地域包括支援センターの職員は、市民や児童向けの認知症研修（認知症サポーター養成研修など）を実施しているので、講師役をお願いすることが可能。</p>
まとめ (5分)	<p>3 ワークシートに記入する</p>	

ワークシート 「認知症について知る・学ぶ」

年 組 番 氏名

1. <認知症クイズ>正しいものには○、間違っていると思うものには×を（ ）に入れてみよう。

- ①「認知症」は誰でもかかる病気である （ ）
- ②「認知症」はお年寄りになる病気である （ ）
- ③「認知症」は治らない病気である （ ）
- ④「認知症」と「もの忘れ」は同じ病気である （ ）
- ⑤認知症になる主な原因は「脳が小さくなる」ことである （ ）
- ⑥認知症の人は、現在のことも、昔のことも、全部忘れてしまう （ ）

2. 今日の授業を聞いて、認知症について勉強する前と後では考え方は変わりましたか？

また、どのように変わりましたか？

* 上記ワークシートの問題以外にも、以下のサイトにあるクイズを印刷して配布してもよいですし、タブレットから二次元コードを読み込ませて個人やグループで考えさせてもよいでしょう。

<参考>

千葉大学医学部「認知症こども『力（ちから）』プロジェクト」

認知症クイズ 1～3年生編

https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ninchi/images/leaflet/quiz_question-lclasses.pdf



認知症クイズ 4年生以上編

https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ninchi/images/leaflet/quiz_question.pdf



☆授業展開案② 「認知症の方とのかかわり方を考えてみよう」

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	<p>1 前回授業「認知症について知る・学ぶ」のふりかえり</p> <p>2 今回の授業内容（こんなときどうする？認知症の方とのかかわり方について）の説明</p> <p>《可能であれば、外部講師を依頼する》</p> <p>・講師役の地域包括支援センター職員を紹介 ⇒地域包括支援センターの業務紹介 ⇒認知症の方に声をかける際のポイント説明</p>	<p>○前回学んだ、認知症の特徴や基本的な症状についての理解を踏まえて、接し方や相手を思いやる気持ちを考えさせる、という目的を説明する。</p> <p>○講師役は地域包括支援センターのケアマネジャーなどに依頼する。</p>
展開 (30分)	<p>3 認知症の方とのかかわり方を考える</p> <p>・ワークシートにある事例をもとに、認知症高齢者への声掛けや対応の仕方について考える。</p> <p>①個人でワークシートに、どのように対応したらよいか、その理由について記入する。</p> <p>②4～5人のグループで、各自の考えを発表し合い、対応方法について話し合う。</p> <p>③可能であれば、話し合った結果でロールプレイ（役割を演技すること）をしてみる。</p> <p>④やってみた結果を踏まえて感想を発表し合う。</p>	<p>○地域包括支援センターのケアマネジャーには、各グループを巡回してもらう。</p> <p>○各グループにファシリテーター役として、認知症キャラバンメイトのメンバーに入ってもらっても可能。</p> <p>*お年寄り役を上記メンバーにやってもらうと、より臨場感・緊張感が出る。</p> <p>*感想には、上記メンバーにも参加してもらう。</p>
まとめ (5分)	<p>4 講師役による講評</p> <p>・講師役による講評。</p>	



ワンポイントメモ

- この授業では、講師役やグループワークのファシリテーターとして、地域包括支援センター職員や認知症キャラバンメイトのメンバーに関わってもらうことを想定しています。
- 日頃、認知症の方々と関わっている専門職や、研修を修了して地域で認知症啓発活動などにかかわっているキャラバンメイトのメンバーに関わってもらうことで、子どもたちにより具体的な対応方法について考えさせることとなります。
- このプログラムを踏まえて、「自分たちにできること」について考えてみるなど、ステップアップして展開していけるとよいでしょう。

ワークシート 「認知症の方とのかかわり方を考えてみよう」

年 組 番 氏名

- 事例① 「さいふがなくなった」といっておばあちゃんが家の中の引出しを探したり、私に「あなたが持っていったの?」と聞いてくる
- 事例② おじいちゃんが、ごはんを食べたばかりなのに、「ごはんをまだ食べていない」と言ってくる

1. 事例を読んで、どのように関わればよいか考えてみよう。

	接し方	そう考えた理由
あなたが考える接し方		
グループで話し合った接し方		

2. グループで話し合った方法で、認知症の方への接し方についてロールプレイ（役割を演じてみる）をやりましょう。

お年寄り役の人 ()
 声掛けする人 ()
 観察する人 ()

*時間があれば、役割を交代してやりましょう。

ふりかえりシート 「認知症の方とのかかわり方を考えてみよう」

年 組 番 氏名

1. ロールプレイ（役割を演じてみること）をやってみて、また観察してみて、どのように思いましたか？（認知症の方の気持ちを想像してみよう）

2. これから認知症の方に会ったとき、どのようなことに気をつけて接していこうと思いますか？（自分たちにできることは何か考えてみよう）

テーマ⑧ 学校のバリアフリーを考える

テーマについて

授業参観や納涼祭、文化祭、運動会などの学校行事に地域のお年寄りを招待することを想定して、学校の中のバリアフリーや配慮すべき点について考えます。

目標（わらい）

自分たちの生活空間の一つである学校に、高齢者が訪問したときの配慮等を考えることにより、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を理解することができる。

事前学習や準備

- ・テーマ③、テーマ④、テーマ⑩、テーマ⑫を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・みなさんの学校で想定しやすい設定で実施してください。
- ・実際に地域の高齢者を呼ぶなど、地域を含めての授業参観や交流会などを行うことを想定できるとよいでしょう。
- ・事前に地域の高齢者のお話を聞いておいてもよいでしょう。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「みなさんの学校の行事で高齢者の方々に来てもらうことになりました。どのようなことに注意すればよいでしょうか。」	
展開 (35分)	2 学校のバリアフリーを考える 「みなさんの教室に来てもらうとしたら、どうしたらよいでしょうか。」 ・教室は無理ならば会場を変更することを考えてもよいでしょう。 ・「エレベータを設置する」という現状では現実的ではない回答も歓迎してあげるとよいでしょう。 「みなさんの教室に訪問してきた高齢者の方々に何を聞いてみたいですか。」 ・自分たちは知らないけれど、高齢者の方々は知っていそうな興味深いことを聞いてみましょう。	○子どもたちがなかなか状況を想定できない場合は、次のような投げかけをしてもよいでしょう。 ・「車いすの人、手押し車（シルバーカー）の人、杖をついている人、階段を上るのが難しい人などがいます。」 ・「みなさんが知らないどんなことを知っていると思いますか。」

	<p>「みなさんがお年寄りになってあげられることには、どのようなことがあるでしょうか。」</p> <p>「学校の施設や設備の中で、高齢者にとって使いやすい部分を探してみましょう。また、使いにくい部分も探してみましょう。」</p>	<p>○バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を教えてもよい。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>3 まとめを行う</p> <p>「実際に学校の行事もあらゆる人が訪問できるように考えなければならないですね。」</p>	

ワンポイントメモ

- 実際に子どもたちが想定しやすい学校行事について、テーマにしてみるとよいでしょう。
- 中学生や高校生では、車いすの高齢者が文化祭に訪問した際の見学ルートや、案内マップを作成させてもよいでしょう。
- 学校が自分たちのためだけではなく、多くの人が関われるコミュニティの場であることを理解させるとともに、子どもたちがケガをして、階段を上がることができなくなったときの配慮すべき点などについて考えさせるのもよいでしょう。
- 行事については、高齢者をサポートするための役割分担等について考えさせてもよいでしょう。
- 実際に高齢者を学校に呼ぶ場合の事前学習として活用することができます。

※このプログラムでは、第三者的に捉える時には「高齢者」、子どもが自分と相対するものとして捉える時には「お年寄り」と表記しています。



ワークシート 「学校のバリアフリーを考える」

年 組 番 氏名

1. お年寄りを教室に呼ぶための準備には何がありますか？

2. お年寄りに何を聞いてみたいですか？（自由に書いてね）

3. みなさんがお年寄りに対してできることを書いてみよう。

テーマ⑨ お年寄りの生活しやすい社会を SDGs で考える

🌱 テーマについて

持続可能な開発目標であるSDGsの3番目の目標となる「すべての人に健康と福祉を」の取組内容やその意義を理解します。

🌸 目標（わらい）

教科などで学んだSDGs(持続可能な開発目標)について取り上げ、健康や福祉に関連して、子どもたちの通学区域を実際に見直させ考えることで、高齢者が生活しやすい環境づくりとは何かを学ぶことができる。

🌼 事前学習や準備

- ・ テーマ⑧を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・ SDGsについての調べ学習を行います。
- ・ 自分の通学区域の不便なところについて調べておきます。
- ・ 通学区域にある施設や公衆電話、AEDについて事前に調査させてもよいでしょう。

時 間	
1 時間目	健康や福祉に関連する施設やモノについて調べよう。
2 時間目（本時）	「すべての人に健康と福祉を」を実現するためには、どのようなことを考えればよいでしょうか。
3, 4 時間目	通学区域の福祉マップを作ろう。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「今日の授業では、SDGsについて考えていきます。」	
展開 (35分)	2 考え、意見を出し合う 「SDGsには、『すべての人に健康と福祉を』という目標がありますが、これはどのような意味でしょう。誰か答えてもらえますか。」 「『すべての人に健康と福祉を』を実現するためには、具体的にはどのようなことをすればよいでしょうか。通学区域の中だけでもかまわないので考えてみましょう。」 「通学区域に病院はありますか。」 「通学区域にAEDは設置されていますか。」	○あらゆる年齢の人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。 ○「健康」や「福祉」とは具体的にどういうことか、必要に応じてより詳しく説明する。 ○「病院」や「AED」は何のために必要なのか考えさせる。

	<p>「通学区域にないものは何でしょうか。」</p> <p>「通学区域でみんなが不便に感じていることや場所は 何でしょうか。また、これをどのように改善すれば よいでしょうか。」</p> <p>「災害が起こったときに、どこか避難できる場所はあ りますか。また、そこには食料が備蓄されていま すか。」</p> <p>「『すべての人に健康と福祉を』を実現するためには、 どのような施設や設備が必要でしょうか。」</p> <p>「『すべての人に健康と福祉を』を実現するために、 日頃から私たちはどのような行動をとればよいで しょうか。」</p>	<p>○「不便なところ」ではさまざまな回答や意 見が出るとよい。</p> <p>○災害時の「高齢者避難」とは何かを考えさ せてもよい。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>3 まとめを行う</p> <p>「『すべての人に健康と福祉を』について考えるとい うことは、私たちの生活にとって必要不可欠なこと であることが理解できたでしょうか。」</p>	

ワンポイントメモ

- 教科書にあるSDGsを身近に感じさせる授業にできるとよいでしょう。
- 通学区域のハザードマップのような、福祉マップを作らせる活動につなげるとよいでしょう。
- 高校生は、通学区域が広いため、GIS(地理情報システム)などを活用して実習を行うことも可能です。
- 健康や福祉に関連する施設やポイントには何があるのか、事前に話し合わせてもよいでしょう。
- 持続可能な開発目標としての社会づくりが、自分たちの将来にとって過ごしやすい社会をつくることと関連し
ていると意識させましょう。

【SDGs (Sustainable Development Goals) とは】

2015年9月国連で採択された「持続可能な開発目標」です。「誰一人取り残さない」という理念のもと、「世界の貧困をなくす」「持続可能な世界を実現する」ことを目指した、2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲット、および、その進展を評価するための指針を持つ包括的な目標です。



※参考：一般社団法人日本SDGs協会ホームページ

ワークシート「お年寄りの生活しやすい社会を SDGs で考える」

年 組 番 氏名

1. SDGs（持続可能な開発目標）について、見たことや知っていることを書いてください。

2. 「すべての人に健康と福祉を」を実現するために、あなたは何ができるでしょうか。
グループで話し合いながら、気づいたことを書いてみましょう。

3. この時間の感想を書いてみましょう。

テーマ⑩ 昔遊びをして異世代交流をしよう

テーマについて

加齢に伴う心身の衰えて介護が必要となった高齢者、現役で元気に働いている高齢者、趣味やボランティア活動を行う高齢者など、一口に高齢者といってもいろいろな人たちがいます。昔遊びを通して高齢者の方々と実際に関わることで、身近に様々な力や技を持つ高齢者がいることを知ってもらいます。

目標（わらい）

高齢者は多年にわたり社会の進展に貢献してきた人として、また、豊富な知識や経験を有する人として敬愛されるべき存在であることに気づかせるとともに、「高齢者＝弱者」といった一方的なイメージの払拭を図る機会とすることができる。

事前学習や準備

- ・テーマ③、テーマ④、テーマ⑧、テーマ⑨を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・高齢者の特徴について具体的に調べておきます。その際、マイナスなイメージだけでなく、他と比べて優れているところ等プラスのイメージについても調べておくといよいでしょう。

《ゲストティーチャーに声かけするには》

- ・ゲストティーチャーを呼ぶには、まずどこに相談すればよいか？

★社会福祉協議会に相談しよう!! (P53 一覧参照)

社会福祉協議会は学校と相談しながら、教師側の要望に沿えるよう、ゲストティーチャーの紹介、橋渡しなど、活動のお手伝いをしてくれます。

- ・ゲストティーチャーを迎える準備をします（入校の手続きや事前の打ち合わせなど）。
- ・社会福祉協議会やゲストティーチャーとの事前打ち合わせを行います。
 - * 授業でゲストティーチャーからの自己紹介（できれば生い立ちなど）をしてもらうことを事前に伝える。
 - * 昔遊びでは「何を何人分持ってきてくれるのか？」を確認する。
 - * 昔遊びではいくつかのグループになって昔遊びの「説明、体験、対決」などを順番に行っていくことが可能か確認する。
 - * 竹とんぼや、缶ポックリなどの昔遊びでは、材料を持ってきて遊具を実際に作る過程から一緒に体験することができればなおよいでしょう。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 高齢者の特徴について考える 「みなさんは、高齢者と聞いて、どのようなことをイメージしますか」 3～4つ意見が出たら、 「今、あげてもらった高齢者の特徴ですが、この後の昔遊びでは当てはまっているか、今日の交流を通して感じてみましょう。」 ・昔遊びを教えてください、高齢者との交流を図ると同時に、高齢者との接し方について考えるきっかけとする。	○このプログラムのテーマを念頭に置きながら高齢者の特徴を具体的にイメージする。 この時、マイナスなイメージも否定しない。
展開 (35分)	2 自己紹介（ゲストティーチャーの紹介） ・生い立ちなどを話してもらう。（5分） 3 高齢者と交流する ・ゲストティーチャーによる伝承遊びなどのパフォーマンス ・遊びを教わりながら実際に体験する （めんこ、ビー玉、輪回し、缶ポックリ、竹とんぼ、お手玉など）	○高齢者を2～3名ゲストティーチャーとしてお招きする。 ○子どもたちから積極的にゲストティーチャーに質問したり、できるだけコミュニケーションをとるよう促す。
まとめ (10分)	4 高齢者と一緒に遊んだ感想を話し合う 5 ふりかえりシートを作成する	○「共生社会」の実現に向け、まずは身近な高齢者との接し方を知ってもらう。 ○時間が足りない場合はふりかえりシートを宿題にしてもよい。



ワンポイントメモ

- 三世代家族が減少する中で、遊びを通じた高齢者との交流は、貴重な時間です。どうやって遊ぶのかわからない物、なんとなくわかるが上手くできないことを人生の先輩方から教えてもらうことで、知ることの楽しみや、世代や分野を越えて一緒に楽しむことを体験しましょう。一般的な高齢者のイメージをくつがえし、高齢者といってもひとくくりできない存在であることを再認識させるよい機会となるはずです。
- 今回は「昔遊び」をテーマに異世代交流しましたが、他にも「グランドゴルフ」などのスポーツを通して異世代交流を深めていくこともよいでしょう。

ふりかえりシート 「昔遊びをして異世代交流をしよう」

年 組 番 氏名

1. 今回のゲストティーチャーとの交流について、感想を書いてみよう。

2. 授業で気づいたことや気になっていることがあれば自由に書いてみよう。

3. 今後、高齢者と接した時にしてみたいことや、自分にできることなどを考えて書いてみよう。

テーマ⑪ 高齢者施設に行ってみよう

🌱 テーマについて

地域には高齢者のための様々な施設がありますが、意外と知られていないのが現状です。実際に施設を訪問することで、高齢・障害等に配慮されたバリアフリーや特徴的な造りを知ったり、高齢者との実際の関わりの中でコミュニケーションをとる際の配慮など、自らの体験を通して学びます。

🌸 目標（わらい）

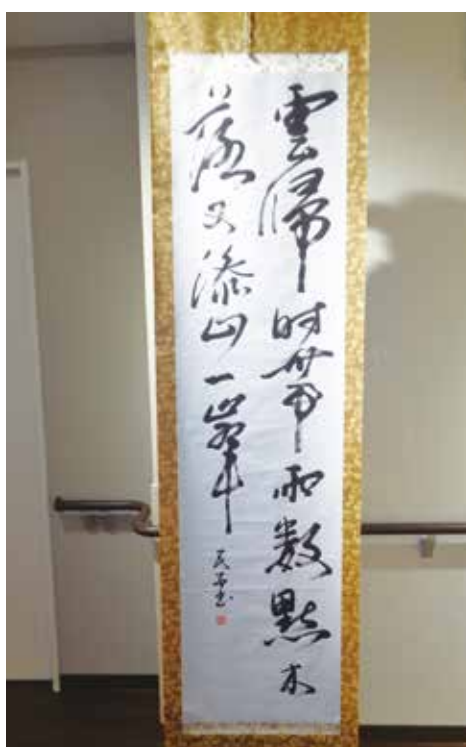
- ・ 自宅で生活することが難しくなった高齢者に対して、施設はどのような配慮のもとに造られ、どのような支援が行われているかを学ぶことができる。
- ・ 高齢者と一緒に生活する家庭が減少している昨今、高齢者と実際に関わったり、交流することで高齢者を理解することができる。

🌸 事前学習や準備

- ・ テーマ⑤、テーマ⑥、テーマ⑦を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・ ワークシートを作成する時間を1コマ、事前学習として設けます。
- ・ 教員がインターネットや市役所などで高齢者施設等が掲載されている資料を入手します。
- ・ 実際に施設に訪問することが可能かどうかを問い合わせます。

※ 社会福祉協議会や地域包括支援センターに相談したり、交流に力を入れている施設や事業所の担当者に聞いてみるのもよいでしょう。

- ・ 訪問が可能となった際には、日時、交流希望時間、人数（子どもたち、教員の人数）、どのようなことを行いたい、話してもらいたいかなどを事前に打ち合わせます。
- ・ 事前学習で用意した質問などがあれば、施設側に事前に知らせておくといいです。



高齢者の作品（介護老人福祉施設うらやす和楽苑提供）

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 ワークシートを使用した事前学習のふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ○施設訪問時の留意点について確認する。 ・明るく挨拶をする ・施設の中は走らない ・勝手な行動はしない 等
展開 (35分)	2 実際に施設に行ってみる 《見学できる場合（スライド含む）》 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の中を見学（実際に施設内を見学できない場合にはスライドなどを使用してもらい、中の様子が分かるようにする。 ・見学の際、どのような場所が高齢者に配慮された造りになっている（バリアフリー等）のかメモしておく。 《体験ができる場合》 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉車両（車いす用のリフトがついている物） ・車椅子体験（スロープなど） ・エレベーターの構造（車椅子用ボタンの高さ、中の広さ、鏡の意味など） 《ふれあいができる場合》 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や施設職員から発表の感想や話を聞く。 ・質問があれば応えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内では職員の話聞くこと、高齢者の話を聞くことを再確認する。 ○物の名称などもメモするように伝えておく。 ○交流（発表など）ができる場合は、どの程度のスペースが必要か、どのような道具（スピーカー、マイクなど）が必要か事前に確認する。 ○質問者を事前に決めておくといよい。
まとめ (5分)	3 まとめを行う <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者（高齢者）や職員にきちんと挨拶をして帰る。 ・学校に戻ったらふりかえりシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感想を発表する機会を設けられれば実施する。 ○ふりかえりシートは宿題にしてもよい。 ○良い観点をまとめて取り上げるとよい。

ワンポイントメモ

- 質問項目はなるべく子どもたちから出たものを大きく変更しないようにしましょう。表現など補足が必要な場合には適宜助言するとよいでしょう。
- 施設を訪問する前と後の子どもたちの考え方や視点に、どのような変化があったのかを聞き出し、共有するとよいでしょう。
- 施設に訪問するまでの方法、必要な時間、費用（交通費）などについても事前に調べておきましょう。
- 施設訪問で保護者等の承諾が必要な場合には、事前に確認をとっておきましょう。

ワークシート 「高齢者施設に行ってみよう」

年 組 番 氏名

- 1 高齢者のための施設にはどのような種類があるか、書き出してみましょう。
また、学校の一番近くにあるのはどのような施設ですか？

- 2 高齢者の施設ではどのような人たちが働いているか、書き出してみましょう。

- 3 年をとると体はどのように変化してくるか、書いてみましょう。

- 4 高齢者の施設や事業所を訪問した時に何をしてみたいか、考えてみましょう。

- 5 高齢者や施設職員の方に質問してみたいことを考えてみましょう。

ふりかえりシート 「高齢者施設に行ってみよう」

年 組 番 氏名

- 1 施設で働く職員の方や、施設を利用する高齢者の話を聞いて感じたことや学んだこと、実際に見学や体験をしてみて気づいたことなどを書いてみましょう。

- 2 今後、大切にしていかなければならないと感じたことや、これからの自分にできることは何があるかを、書いてみましょう。

テーマ⑫ 高齡者疑似体験を通して身体の変化を知ろう

🌱 テーマについて

高齡者になると、加齡によって身体の機能に変化が生じ、若かったころと比べ、生活の様子に変化が生じることがあります。高齡者疑似体験を通して身体の変化を知り、地域に暮らす高齡者との関わり方を考えます。

🌸 目標（わらい）

- ・高齡者になると、今までできていたことが難しくなることがある。体験を通して高齡者の生活を考えることができる。
- ・地域に暮らす高齡者との関わり方について考えることができる。

🌼 事前学習や準備

- ・テーマ①、テーマ②、テーマ⑪を事前学習に充てるとより効果的です。
- ・高齡者の身体機能の変化について、事前に調べさせておいてもよいでしょう。
- ・高齡者疑似体験セット及び体験場所を用意します。
- ・高齡者疑似体験セットは、社会福祉協議会等で貸出している場合があるため、相談してみましょう（P53 一覧参照）。
- ・体験場所は、教室、廊下、階段、図書室など、普段の自分の生活と比較ができる場所に設定しましょう。
- ・高齡者疑似体験セットが無い（足りない）場合には、自作させることも学びになります（P50 参照）。
- ・疑似体験は導入しやすい一方、不便だけが強調されてしまうことがあります。高齡者に対する理解が一面的なものに偏らないよう、このプログラムでは、他のプログラムと組み合わせて実施するとより効果的です。
- ・このプログラムは、授業展開案①「体験授業」と、②「話し合いの授業」をセットで展開します。

☆授業展開案（おおよそ1コマ：45分～50分の展開です）

① 体験授業

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 本時のテーマと目標を説明する 「高齡者になると、身体の機能が変化します。若いころにできたことができなくなる人もいます。高齡者の生活と、私たちの関わり方について考えましょう。」	○体験後に使用するワークシートについて事前に説明をしておく。

<p>展開 (30分)</p>	<p>2 高齢者疑似体験を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 装具の意味（効果）を説明する。 ・ 装具のつけ方を説明する。 ・ 2人1組で装具を装着する。 ・ 装具をつける人とつけない人の2人1組で、行動する。 ・ 装具をつけている人は、高いところにある物を取るなど、普段の何気ない行動をしてみて、どのような場面で苦勞があるのか体験してみる。 ・ 装具をつけていない人は、腕を引っぱったり、急に杖を取ったりしないで、装具をつけた人のペースに合わせて、見守りながら歩く。 <p>3 ワークシートへの記入</p> <p>体験をとおして気づいたことをワークシートの①に記入させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 装具ごとに、高齢者のどのような状態を再現しているのか説明する。 ○ 装具を使用するが、高齢者が皆同じ状況になるというではないことを説明する。 ○ 人数が多い場合は、使用する装具を限定したり、装具ごとにグループ分けをして体験すると時間短縮になる。 ○ 装具をつけていない人は、装具をつけている人と一緒に行動した際にどのように感じたのか、どのようなサポートが必要か考えさせてもよい。 ○ ワークシートは、時間が足りなければ、プログラム終了後に記入時間を設ける。
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 まとめを行う</p> <p>「高齢者の身体の変化によって生じる行動のしづらさを体験しましたが、これは人によって違いがあります。元気に活動している人もたくさんいますが、行動が難しくなる人もいます。」</p> <p>「身体の機能が衰えると、若いころにできたことが、簡単にはできなくなることもあります。今日感じたような変化があると、どのような生活になるでしょうか。」</p> <p>「高齢者の皆さんが自分の街で暮らしていくために、どのような工夫がされているでしょうか。この後(次)の授業で考えていきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 皆が同じ装具をつけていても、体感は一歳それぞれに違いがあり、「大変だった」「余裕で動けた」など、体格や筋力によって違いが生じることを考慮する。 ○ 高齢者も一人ひとり身体変化は異なる。仕事やボランティアをして社会を支えている元気な高齢者もたくさんいる。 ○ 前後の調べ学習との関連や、他のプログラムのつなぎとして投げかけてもよい。 ・ 高齢者本人の生活の様子や工夫 ・ 自分を含め、周囲の人や家族のサポート ・ 地域によるサポート（サロン、サークル、民生委員などによる見守り など） ○ 高齢者が楽しみや役割をもって元気に活動することの大切さも考えてみるとよい。

②話し合いの授業

配時	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	1 体験のふりかえり ワークシートの①の欄に記入した内容を数名が発表する。	○人によって身体に生じる変化は違うことを伝える。
展開 (10分)	2 ワークシートの②の欄について考え、発表させる	○同じ地域で暮らしていくために、互いに何ができるのかを考えていく。まずは高齢者の生活の様子をイメージさせる。
まとめ (30分)	3 まとめを行う 4～5名のグループでワークシートの③の欄について話し合う。	○自分や周りの人たちにできることを話し合い、自分のこととして捉えられるようにする。 ○「高齢者ができる工夫」については、「筋力が衰えないように散歩する」など高齢者自ら取り組む内容も意見として受け止める。 ○後日、デイサービスやサロンなど、地域の高齢者が集う場所について調べ学習をしてもらい。



ワンポイントメモ

- このプログラムで取り入れた体験は、多様な人の暮らしを考えるきっかけとして活用します。体験だけで終わると、高齢者の一方的な側面しか見えなくなってしまう。他のプログラムを併用して、高齢者の暮らしや地域の活動を知り、共に暮らしていくためにはどうすればよいのか、話し合うことを継続できるとよいでしょう。
- 「高齢者になると、体が弱り、活動ができなくなる」という偏った理解にならないよう配慮しましょう。高齢者でも働いている方もいれば、個人の趣味や運動などを楽しむ方も多くいます。また、ボランティアなどの地域活動で活躍されている方の多くが高齢者であり、高齢者が社会を支えている面が多々あります。
- 高齢になると身体的な変化が生じることもまた事実です。高齢者のひとつの面だけでなく、あらゆる側面を知ることで、「支える・支えられる」という一方的な関係ではなく、互いの苦手や得意を補い合い、支え合っていくことが大切です。そのあらゆる側面を知る機会として、このプログラム集に掲載されている他のプログラムを併用することがより効率的です。

ワークシート 「高齢者疑似体験を通して身体の変化を知ろう」

年 組 番 氏名

高齢者の体験をして感じたことと、ふだんの自分の様子を比べてみよう。

今回は、高齢者疑似体験セットをつけましたが、体格の違いなどにより、感じ方はさまざまです。

①体験をして気づいたことを書いてみよう。

いつものようにできたこと	いつもと違って難しかったこと	どうすれば安心して行動できた？

②高齢によって身体に変化が生じると、どのように生活が変わるでしょうか。

--

③自分たちも高齢者も、みんなが暮らしやすい地域にするには？

生活の中で高齢者ができる（している）工夫	自分ができることはなに？ 友達やまわりの人と協力できることはなに？

Pick Up

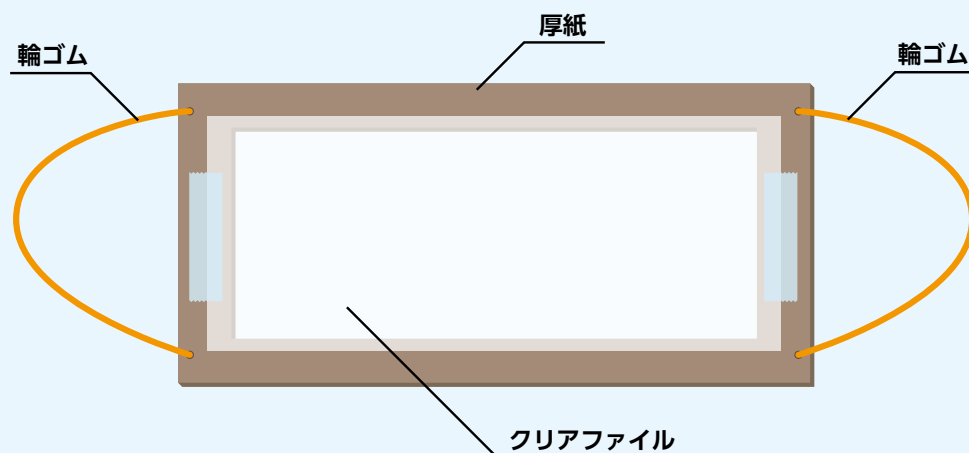
高齡者疑似体験セット自作方法（例）

目：白内障の様子を知るためのメガネを作成します。

両端に輪ゴムをつけた厚紙の真ん中を切り抜き、そこにクリアファイル（なるべく透明なもの）を貼り付けることで、霞がかった視界を体験します。（皮質白内障）

黄色いクリアファイルに変えることで、黄色みがかかった視界を体験します。（核白内障）

切り抜きの形・大きさによっては、視野狭窄も体験できます。



弱視体験めがねの作り方

https://www.kyoto-be.ne.jp/kyoto-ssc/cms/?action=common_download_main&upload_id=2790

参考：京都府スーパーサポートセンター（SSC）



耳：聞こえづらさを体験するために、市販されているソフトスポンジの耳栓を使用します。

上半身：体幹や姿勢の変化を体験します。ポケット付きのベストにおもりを入れて装着したり、ナップサックやリュックサックにおもりを入れて前側に装着します。（背中が丸くなるくらいの重み）

肘：関節の曲げ伸ばしのしづらさを体験するために、タオルを広げた状態で肘関節部分に巻き付けます。

手首：腕の筋力の衰えを体験するために、1～1.5kg 程度の重さの市販のおもりを装着します。

手：手や指の感触の低下を体験するために透明の袋（医療用使い捨て手袋など）を2枚重ねて装着します。指の部分にガムテープを貼ると、指の動かしにくさが体験できます。

膝：肘と同じ要領で、膝関節部分に巻き付けます。

足首：足の筋力の衰えを体験するために、2～3kg 程度の重さの市販のおもりを装着します。

注） 手作りや代用品であっても身体機能が制限されることに変わりはありません。
安全には注意して作成・体験しましょう。

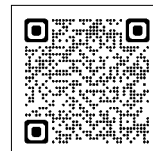


高齢者に関する参考資料

【政府統計の総合窓口 e-Stat】

各省庁が公表する統計データをまとめてあるポータルサイトです。知りたい統計データを検索してダウンロードすることができます。

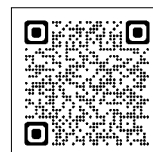
<https://www.e-stat.go.jp/>



【内閣府 高齢社会白書】

高齢社会対策基本法に基づき、毎年政府が国会に提出している年次報告書です。高齢化の状況や政府が講じた、または講じようとしている高齢社会対策の実施状況についてまとめられています。

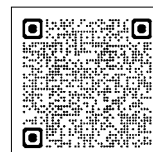
<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>



【厚生労働省 介護・高齢者福祉】

厚生労働省が所管している施策に関する情報、最新のトピックス、関連する法令や通知などの情報が掲載されています。

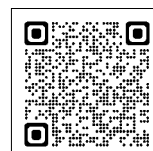
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/index.html



【厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所】

少子高齢化等の人口問題に関する調査研究、国民の福祉向上に資する社会保障の調査研究、海外の社会保障の情報など、人口と社会保障の関連性を総合的に研究・報告されています。

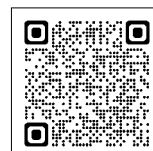
<https://www.ipss.go.jp/>



【厚生労働省 介護サービス施設・事業所調査】

都道府県を対象とし、介護保険制度に基づく施設・事業所の基本情報、事業の詳細、利用者の状況等を定期的に調査し、公表されています。

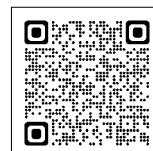
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/24-22-2.html>



【介護労働安定センター 介護労働実態調査】

介護労働力の需要増大を鑑み、介護労働者の雇用、職業能力の開発・向上、介護事業者への支援など、介護分野全般についての支援事業の実態を知ることができます。

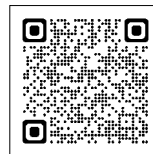
<http://www.kaigo-center.or.jp/report/index.html#01>



学校の授業で利用できる動画のご紹介

NHK for School

<http://www.nhk.or.jp/school/>



- 各教科の授業で使うことのできる番組や動画クリップを9,000本以上、ウェブ上で視聴することができます。
- 各番組に、イラストやワークシートなどが用意されており、印刷してすぐに授業で活用することができます。
- 学習指導案の例が用意されている番組も多く、授業を組み立てる際の参考としていただけます。

■ お問い合わせ先：ウェブサイト「NHK for School」(www.nhk.or.jp/school/) の「ご意見・お問い合わせ」
NHK ふれあいセンター（ナビダイヤル）0570-066-066

NHK アーカイブス「NHK ティーチャーズ・ライブラリー」

<http://www.nhk.or.jp/archives/teachers-l/>

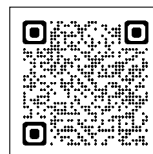


- NHK アーカイブスより授業で役立つ番組のDVDを厳選し、学校内での教育活動へ限定して無料で貸し出ししています。
- 貸し出し先は、学校などの教育機関に限定します（コピー不可）。
- 実際に利用する教員の方からお申し込みください。
- 貸し出しは無料ですが、往復の送料は利用者負担となります。
- 1回（1人）につき3タイトルまでの貸し出しで、貸し出し期間は最大1か月です。
- 多くの番組には、現場の教師が執筆した「学習展開例」や「番組活用例」が添えてあり、授業を組み立てる際の参考にいただけます。

■ お問い合わせ先：NHK ティーチャーズ・ライブラリー事務局
電話 03-3462-7932（平日 10:00～18:00）

NHK 厚生文化事業団「福祉ビデオライブラリー」

<https://www.npwo.or.jp/video/687>



- NHK で放送した福祉関連の番組と、NHK 厚生文化事業団が制作したDVD、約600種類を無料で貸し出ししています。
- どなたでも利用できます。ただし、営利目的の利用はできません。
- 貸し出しは1回の利用で4点まで。
- 手元に10日間置いて見ることができます。
- 貸し出しは無料ですが、往復の送料負担が必要です。

■ お問い合わせ先：NHK 厚生文化事業団「福祉ビデオライブラリー係」
電話 03-3476-5955（平日 10:00～18:00）FAX 03-3476-5956

福祉教育に関する相談先（市町村社会福祉協議会一覧）

各市町村には社会福祉協議会（社協）があり、福祉教育を推進しています。福祉教育の進め方や内容に困った時には、ぜひお近くの社協に相談してみてください。

（令和4年3月現在）

市町村別相談窓口	郵便番号	住 所	電話番号	疑似体験器具の貸し出し		
				車椅子	高齢者疑似体験セット	白杖・補助杖
千葉市社会福祉協議会 千葉市ボランティアセンター	260-8618	千葉市中央区千葉寺町 1208-2 千葉市ハーモニープラザ B 棟 3 階	043(209)8850	○	○	○
千葉市社会福祉協議会 中央区ボランティアセンター	260-8511	千葉市中央区中央 4-5-1 きぼーる 15 階	043(221)2177	○		
千葉市社会福祉協議会 花見川区ボランティアセンター	262-8510	千葉市花見川区瑞穂 1-1 花見川保健福祉センター 3 階	043(275)6438	○	○	○
千葉市社会福祉協議会 稲毛区ボランティアセンター	263-8550	千葉市稲毛区穴川 4-12-4 稲毛保健福祉センター 3 階	043(284)6160	○	○	○
千葉市社会福祉協議会 若葉区ボランティアセンター	264-8550	千葉市若葉区貝塚 2-19-1 若葉保健福祉センター 3 階	043(233)8181	○	○	○
千葉市社会福祉協議会 緑区ボランティアセンター	266-8550	千葉市緑区鎌取町 226-1 緑保健福祉センター 2 階	043(292)8185	○	○	○
千葉市社会福祉協議会 美浜区ボランティアセンター	261-8581	千葉市美浜区真砂 5-15-2 美浜保健福祉センター 2 階	043(278)3252	○	○	○
銚子市社会福祉協議会	288-0047	銚子市若宮町 4-8 市保健福祉センター内	0479(24)8189	○	○	
市川市社会福祉協議会 地域福祉・ボランティアセンター	272-0026	市川市東大和田 1-2-10 市分庁舎 C 棟 1 階	047(320)4002	○	○	○
船橋市社会福祉協議会 船橋市ボランティアセンター	273-0005	船橋市本町 2-7-8 市福祉ビル 3 階	047(431)8808	○	○	○
館山市社会福祉協議会	294-0045	館山市北条 402 市役所 4 号館内	0470(23)5068	○	○	○
木更津市社会福祉協議会 ボランティアセンター	292-0834	木更津市潮見 2-9 市民総合福祉会館 1 階	0438(25)2089	○	○	○
松戸市社会福祉協議会 地域福祉推進課	271-0094	松戸市上矢切 299-1 市総合福祉会館内	047(710)2341	○	○	○
野田市社会福祉協議会	278-0003	野田市鶴奉 5-1 市総合福祉会館内	04(7124)3939	○	○	
茂原市社会福祉協議会	297-0022	茂原市町保 13-20 市総合市民センター	0475(23)1969	○	○	○
成田市社会福祉協議会	286-0017	成田市赤坂 1-3-1 市保健福祉館内	0476(27)7755	○	○	○
佐倉市社会福祉協議会 ボランティアセンター	285-0013	佐倉市海隣寺町 87 市社会福祉センター 2 階	043(484)6198	○	○	
東金市社会福祉協議会	283-0005	東金市田間 3-9-1 市保健福祉センター 2 階	0475(52)5198	○	○	
旭市社会福祉協議会	289-2712	旭市横根 3520 飯岡福祉センター内	0479(57)3133	○	○	
習志野市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター	275-0025	習志野市秋津 3-4-1 市総合福祉センター内	047(451)7899	○	○	○
柏市社会福祉協議会 地域福祉課	277-0005	柏市柏 5-8-12 ラコルタ柏（教育福祉会館）3 階	04(7165)0880	○	○	○
勝浦市社会福祉協議会	299-5226	勝浦市串浜 1191-1 市保健福祉センター内	0470(73)6101		○	
市原市社会福祉協議会 ボランティアセンター	290-0075	市原市南国分寺台 4-1-4	0436(20)3100	○	○	○
流山市社会福祉協議会	270-0157	流山市平和台 2-1-2 市ケアセンター 3 階	04(7159)4735	○	○	○
八千代市社会福祉協議会 地域振興課	276-0046	八千代市大和田新田 312-5 市福祉センター内	047(483)3021	○		○
我孫子市社会福祉協議会	270-1166	我孫子市我孫子 1861	04(7184)1539	○	○	○
鴨川市社会福祉協議会	296-0033	鴨川市八色 887-1 市総合保健福祉会館 2 階	04(7093)0606	○	○	
鎌ヶ谷市社会福祉協議会	273-0195	鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷 2-6-1 市総合福祉保健センター内	047(444)2231	○	○	

※疑似体験器具の貸し出し要件については、直接その市町村社協にお問い合わせください

(令和4年3月現在)

市町村別相談窓口	郵便番号	住 所	電話番号	疑似体験器具の貸し出し		
				車椅子	高齢者疑似体験セット	白杖・補助杖
君津市社会福祉協議会	299-1152	君津市久保 3-1-1 市保健福祉センターふれあい館 3 階	0439(57)2250	○	○	
富津市社会福祉協議会	293-0006	富津市下飯野 2443 市役所内	0439(87)9611	○	○	
浦安市社会福祉協議会	279-0042	浦安市東野 1-7-1 市総合福祉センター内	047(355)5271	○	○	○
四街道市社会福祉協議会 地域福祉係	284-0003	四街道市鹿渡無番地 市総合福祉センター内	043(422)2945	○	○	
袖ヶ浦市社会福祉協議会 地域支援係	299-0256	袖ヶ浦市飯富 1604 市社会福祉センター内	0438(63)3888	○	○	○
八街市社会福祉協議会 地域福祉推進班	289-1192	八街市八街ほ 35-29 市総合保健福祉センター 3 階	043(443)1411	○	○	
印西市社会福祉協議会	270-1325	印西市竹袋 614-9 市総合福祉センター内	0476(42)0294	○	○	
白井市社会福祉協議会 ボランティアセンター	270-1492	白井市復 1123 市保健福祉センター内	047(492)5716	○	○	
富里市社会福祉協議会	286-0221	富里市七栄 653-2 市福祉センター 1 階	0476(92)2451	○	○	○
南房総市社会福祉協議会	295-0004	南房総市千倉町瀬戸 2705-6 ちくろ介護予防センターゆらり内	0470(44)3577	○	○	
匝瑳市社会福祉協議会	289-3182	匝瑳市今泉 6491-1	0479(67)5200	○	○	○
香取市社会福祉協議会	287-0001	香取市佐原口 2116-1	0478(54)4410	○	○	
山武市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター	289-1223	山武市埴谷 1868-14 山武福祉センター内	0475(89)2121	○	○	○
いすみ市社会福祉協議会	299-4621	いすみ市岬町東中滝 720-1 岬ふれあい会館内	0470(87)8857	○	○	
大網白里市社会福祉協議会	299-3251	大網白里市大網 131-2・133 合併 1 福祉会館内	0475(72)1995	○	○	
酒々井町社会福祉協議会	285-0922	印旛郡酒々井町中央 4-11 町役場内	043(496)6635	○	○	○
栄町社会福祉協議会	270-1515	印旛郡栄町安食台 1-2 町役場 2 階	0476(95)1100	○	○	
神崎町社会福祉協議会	289-0221	香取郡神崎町神崎本宿 96 神崎ふれあいプラザ保健福祉館内	0478(72)4031	○	○	
多古町社会福祉協議会	289-2241	香取郡多古町多古 777-1	0479(76)5940	○	○	
東庄町社会福祉協議会	289-0612	香取郡東庄町石出 2692-4 オーシャンプラザ内	0475(86)4714	○	○	
九十九里町社会福祉協議会	283-0104	山武郡九十九里町片貝 2910 町保健福祉センター内	0475(70)3163	○	○	
芝山町社会福祉協議会	289-1604	山武郡芝山町飯櫃 126-1 町福祉センターやすらぎの里内	0479(78)0850	○	○	
横芝光町社会福祉協議会	289-1727	山武郡横芝光町宮川 11902	0479(80)3611	○		
一宮町社会福祉協議会	299-4301	長生郡一宮町一宮 1865	0475(42)3424	○		
睦沢町社会福祉協議会	299-4403	長生郡睦沢町上市場 921-1 むつざわ福祉交流センター内	0475(44)2514	○	○	○
長生村社会福祉協議会	299-4345	長生郡長生村本郷 1-77	0475(32)3391	○		
白子町社会福祉協議会	299-4218	長生郡白子町関 92 町公民館内	0475(33)5746	○	○	○
長柄町社会福祉協議会	297-0218	長生郡長柄町桜谷 712 町福祉センター内	0475(30)7200	○	○	
長南町社会福祉協議会	297-0121	長生郡長南町長南 2110 町保健センター内	0475(46)3391		○	
大多喜町社会福祉協議会	298-0214	夷隅郡大多喜町新丁 163 老人福祉センター内	0470(82)4969	○	○	
御宿町社会福祉協議会	299-5102	夷隅郡御宿町久保 1135-1 町地域福祉センター内	0470(68)6725	○	○	
鋸南町社会福祉協議会	299-1902	安房郡鋸南町保田 560 町ボランティアセンター内	0470(50)1174	○	○	

※疑似体験器具の貸し出し要件については、直接その市町村社協にお問い合わせください

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン
保険金の種類				
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円	550円

商品パンフレットは
コチラ(ふくしの保険
ホームページ)

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

令和4年度

新型コロナウイルスを含む特定感染症に対し、
新たなオプションが追加されました



ホームページでも内容を紹介しています
<https://www.fukushihoken.co.jp>



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、
動産総合保険、費用・利益保険)

① 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額

	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応		
身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用		
事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

- オプション1 ●訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ●施設の医療事故補償
 - ・医務室の医療事故補償
 - ・看護職の賠償責任補償
- オプション3 ●施設の借用不動産賠償事故補償
- オプション4 ●クレーム対応サポート補償

NEW

●オプション5 ●施設の感染症対応費用補償

- 休業補償から各種対応費用までワイドな安心
- ①休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
 - ②消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
 - ③感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

② 個人情報漏えい対応補償 ③ 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- ① 入所型施設利用者の傷害事故補償
- ② 通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- ① 職員の労災上乗せ補償
 - オプション：使用者賠償責任補償
- ② 役職員の傷害事故補償
- ③ 役職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償



プラン4 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137

受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667

受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ21-12224 から抜粋)

データのダウンロードについて

- 本冊子のデータは、千葉県社会福祉協議会ウェブサイトの、「ボランティア」のページの【ボランティアセンターからのお知らせ】からダウンロードすることができます。
- 「福祉教育プログラム集＜障害編＞」や、福祉教育を行う際に大切な視点やポイントをまとめた「福祉教育を効果的に行うためのチェックリスト」を掲載した「福祉教育ハンドブック ACCESS&SUCCESS（改訂2版）」も同じページからダウンロードすることができます。

ダウンロードはこちらから

福祉教育プログラム集
＜高齢編＞



福祉教育プログラム集
＜障害編＞



福祉教育ハンドブック
ACCESS&SUCCESS
(改訂2版)



【福祉教育プログラム＜高齢編＞検討委員】

順天堂大学 スポーツ健康科学部	先任准教授	松 山 毅	委員長
千葉県立松戸向陽高等学校	講師	佐 藤 知 行	副委員長
社会福祉法人東京栄和会 うらやす和楽苑	生活課長	足 立 昌 紀	
千葉県立千葉高等学校	主幹教諭	大 橋 真 也	
市川市社会福祉協議会	事務局次長兼 総務課長	川 名 成 和	
社会福祉法人六親会 成田市西部西地域包括支援センター	管理者	木 下 知 子	
千葉県教育庁教育振興部学習指導課	指導主事	田 中 遼 平	
四街道市社会福祉協議会	副主査	豊 田 紀 幸	
中核地域生活支援センターがじゅまる	副センター長	宮 本 正 栄	

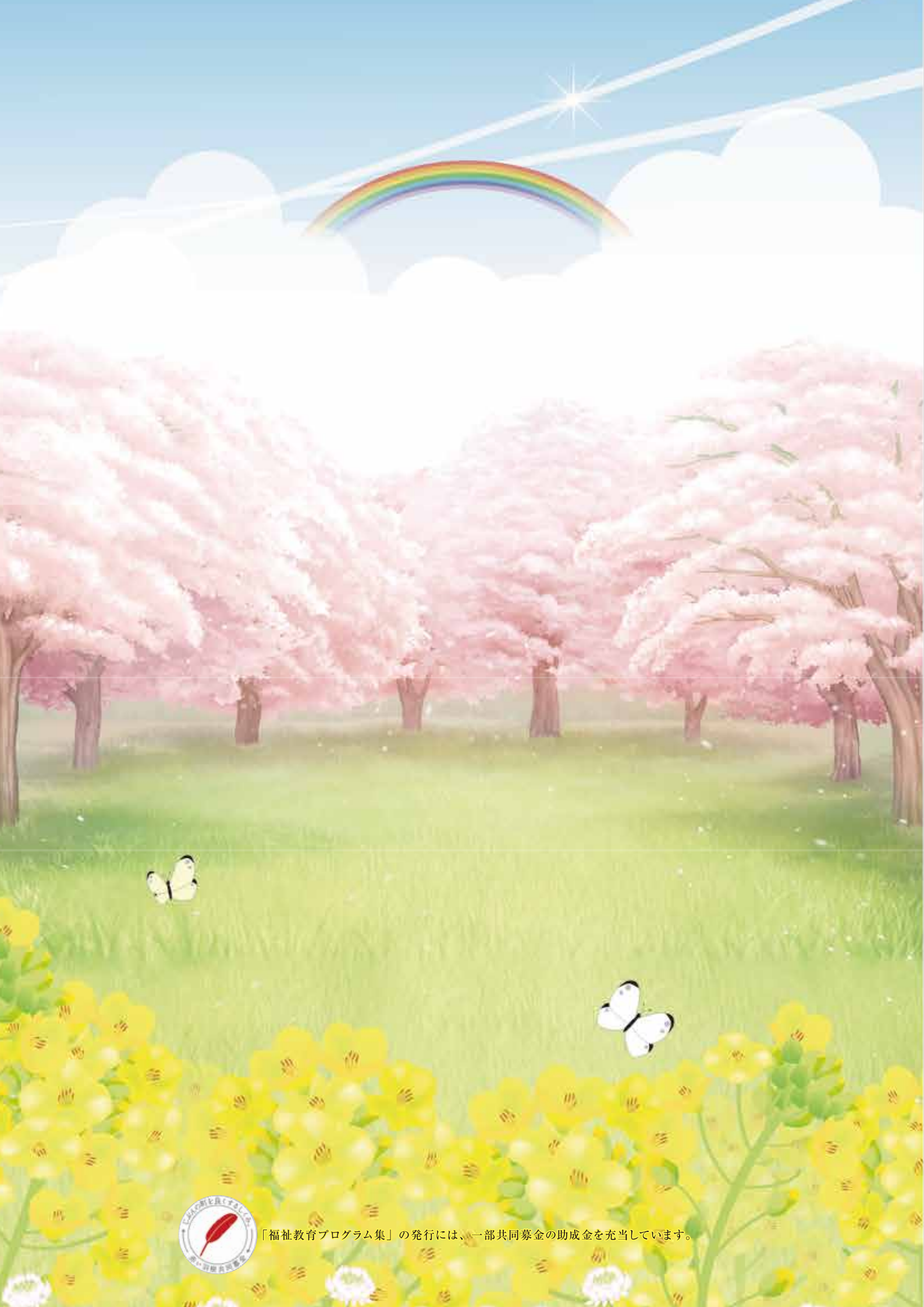
事務局

千葉県社会福祉協議会	事務局次長兼 地域福祉推進部長	鈴 木 鉄 也
千葉県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター	主査	平 野 智 士
千葉県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター	主事	今 井 祐 司

～授業で使える～

福祉教育プログラム集＜高齢編＞

発行日 2022年3月31日
発行所 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
千葉県千葉市中央区千葉港4番3号
編 著 福祉教育プログラム集＜高齢編＞検討委員会



「福祉教育プログラム集」の発行には、一部共同募金の助成金を充当しています。